



新たな学校づくりの「第3回検討委員会」を行いました！

2月21日(水)に第3回小牧市新たな学校づくり推進計画検討委員会を開催しました。新たな学校づくりに関するアンケートの結果を報告した後、学校の適正規模・適正配置について意見交換を行いました。

アンケート結果

中学生	○学校教育で重視して欲しいことについて問うアンケート結果では、「多くの友達ができる環境」(61%)の回答割合が最も高い
保護者	○学校の適正配置(学区の見直しや統廃合)を行う場合に心配されることについて問うアンケート結果では、「家から学校までの距離や通学時間」(77%)の回答割合が最も高い
教職員	○学級数や学級の人数が減る場合に心配される影響について問うアンケート結果では、「児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい」(50%)の回答割合が最も高い

適正規模 適正配置

適正規模の基本的な考え方

①小学校

1校あたり **12学級から24学級**
(1学年あたり2学級から4学級)

②中学校

1校あたり **12学級から24学級**
(1学年あたり4学級から8学級)

委員) 小中一貫校とする場合の考え方の検討が必要!

適正配置の基本的な考え方

①小学校

<通学距離の許容範囲>
おおむね **4km程度**を目安
<通学時間の許容範囲>
おおむね **1時間以内**を目安

②中学校

<通学距離の許容範囲>
おおむね **6km程度**を目安
<通学時間の許容範囲>
おおむね **1時間以内**を目安

地域の実情に応じながら、許容範囲を超えなくても公共交通機関の活用やスクールバス導入の検討が必要

取り組み方針

委員) 限られた予算をより集中して効果的な教育を実現するために、ハード面・ソフト面のコストを試算・比較し、市民の理解を得ていく必要がある

- 通学区域の変更や学校の再編により、**適正規模の確保**に努める。
- 特に、将来推計で学級数が**6学級以下**となる学校が立地する地区(巾下地区・篠岡地区・北里地区)について、**早急に取り組む**。
- 学校の再編では、対象となる**学校及び地域と十分な調整**を図り、地域の方々の理解と協力を得ながら、取り組んでいく。

